

原寸大

手作りマスクに挑戦

▼型紙のサイズです。切り取って厚紙に貼るなどして活用してください

【材料】

- ・木綿布（表布） 31 cm × 17 cm
- ・木綿布（裏布） 26 cm × 17 cm
- ・ゴム 60cm
※輪切り（幅2cm）にしたタイツを丸めたものでも代用可
- ・厚紙（型紙用）、手縫い針、手縫い糸など

【作り方】

- ① 布を中表に2つ折りして、型紙どおりにカットする
2枚重ねたまま、鼻からあごまでのカーブを1cmの縫いしろで縫う
- ② 裏布も①と同じように作る
- ③ ①と②を中表に合わせ、上端と下端を1cmの縫いしろで縫う
- ④ 脇から表に返して形を整える。脇を1cmの3つ折りにして縫う
- ⑤ 半分にカットしたゴムを左右の脇に通し、長さを調節して結ぶ

あご

鼻

内側布カッタライン

※作り方に関する問い合わせは下記をお願いします。

一緒に、作ろう。

耐えて待つ日々を、新しい日常へのステップに変えよう。マスク越しでもいい。笑顔で会える、その日のために。

▶発起人の梅野千香さん(右) (家庭科担当)



生徒へ。そして地域へ。

新型コロナウイルス感染症の拡大を食い止めるため、国は全都道府県を対象に緊急事態宣言を発令。休校により、学び舎は静寂に包まれました。

出口の見えない自粛の日々が続いていた5月1日。西田川高等学校では「マスク作り」で生徒を迎える準備が進んでいました。発起人は、同校で家庭科を担当する梅野千香さん。学校再開後にマスク作りを生徒に伝えられるよう、教員が作り方を学ぶ研修を企画しました。家庭科担当教員2人が、布の裁断やミシンでの縫い方などを指南。参加した8人は、コツをつかみながら丁寧にマスクを仕上げました。使う布によって、シンプルなものから賑やかなもので、マスクの表情はさまざま。耳にかけるゴムをタイツやストッキングで代用するなど、工夫も凝らされています。地歴公民を担当する中村光希さんは「思ったより簡単にできて、良いフィット感です」と太鼓判を押しました。指導にあたった梅野さんは「生徒に会いたいという気持ちは、先生たちの共通の思いです。生徒に教えることだけでなく、こうした準備をして『みんなの帰りを待っているよ』というメッセージも込めています」とこり。また「マスクの作り方が地域のみなさんに広がることで、感染予防の助けになれば」と思いを語りました。

この取り組みは、新聞報道などで地域に波及。後藤寺商店街の洋服店から同校にマスクの材料が贈られるなど、地域と学校の輪が広がっています。

ミシン糸を譲ります



実習用のミシン糸を譲ります。最近はマスクの手作りが普及し、糸が手に入りやすくなっているようです。地域のみなさんのマスク作りに役立ててもらえれば幸いです。

- 1人5個まで
- 問い合わせ 西田川高等学校 梅野 (☎44-0313)

